

令和6年度 会派議員派遣報告書

会 派 名	創志会
議 員 名	村上 真以
議員派遣先名	大阪駅前第4ビル23階 リファレンス（大阪市北区梅田）

派遣費用

科 目	支出額	摘 要
研修・研究費	20,780円	交通費、日当
研修・研究費	30,495円	受講料、手数料
合 計	51,275円	

1 三原市での課題と派遣の目的（本市の現状と課題を明確に）

不登校の問題は、本市議会でも政策提言の課題として取り上げた。今回は更に、家庭教育支援、不登校支援について、現場からの視点で研修する。

2 実施概要（1カ所目）

実 施 日 時	派遣先	大阪駅前第4ビル23階 リファレンス
令和 7年 1月14日 10:00 ~ 16:30	担当部局	地方議員研究会 講師 山下 真理子
報 告 内 容 ・ 所 感	少子高齢社会だからこそ求められる家庭教育支援について説明を受けた。 ■ 昭和60年と令和2年の比較 ・ ひとり親世帯、単独世帯の合計は昭和に比べて2.5倍増加 ・ 家庭での役割、家事時間も共働き、男性の育休など変化がみられる。 ・ 家事育児能力を求める夫婦が多くなっている。 （所感）核家族世帯での子育ても多くなっているため、家庭の孤立化が起りやすく、行政からの支援も望まれている。行政がコーディネーター役となって地域の教育力を向上させていくことも、間接的な家庭教育支援の一環である。 （参考事例）アウトリーチ家庭教育支援、子育てサロン、親学習、広報、小1訪問	

報告内容・所感	■ 子ども家庭庁設置による変化 こども政策の新たなこどもの貧困・虐待など問題への対応を一元化 ・ 妊娠、出産、子育てまでの一貫した伴走型相談支援および出産子育て応援交付金 ・ 産後ケアの利用料減免 ・ いじめ調査アドバイザーによる自治体への助言 ・ 保育所の定員の枠を利用し未就学児を定期的に預かる など ・ 「はじめての100か月の育ちビジョン」取組の推進 →節目節目での切れ目のない子育て支援を行う。 (所感) 近年は、保護者のライフスタイルの変化にともない、参加型の家庭教育支援に関する課題が指摘されるようになってきた。 セミナーを行っても意識の高い方しか集まらないというのも課題である。 そのため、訪問型家庭教育支援も効果的のようだ。 (参考事例) 小1全戸訪問、小4訪問支援は同じ支援員が良い <大阪府>学校担任だけのサポートではなく、家庭教育支援チームとして地域、多種職、行政との連携を図って地域の見守っていく体制づくりを構築 ■ 不登校支援 小中学校合わせて34万6,482人 平成29年頃から増加傾向にある。 (登校に関する課題) 五月雨登校・別室登校・付き添う登校・放課後登校・校門登校 (不登校支援の課題) 支援のスピード感が足りない。家庭に対する支援が不足している。 支援を拒否する家庭や子どもへの支援をどうするか。 ■ 誰一人取り残さない不登校支援とは 医療機関、ホームスクーリング、山村留学、フリースクール、復学支援メタバースを活用した不登校支援、広島県教育支援センターなどの支援がある。 ■ ヤングケアラーなどの様々な課題に何が出来るか 令和2年以降、ヤングケアラー支援条例を制定する自治体が増加している。
市政に活かせること(まとめ)	不登校になってからの不登校支援も不登校になる前の家庭教育支援も共に力を入れて取り組む必要性を感じた。 産前産後から切れ目のない支援、「はじめての100か月の育ちビジョン」取組を充実することも支援の一つであることが分かった。 今回沢山の事例を聞くことができた。講師の出版書籍も非常に共感する部分があり分かりやすかった。ぜひ、教育支援の一つとして進めていきたい。 今年の4月からは、三原市でもコミュニティスクールの運営が開始されるため、議会としても注視していきたい。現代の子育て世代が抱えるニーズを把握し、スピード感を持った支援の輪を大切に今後の取組に活かしていきたい。

※ 施設先の写真・資料等を必ず添付すること。